

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

父の日に牛乳を贈ろう！
今年も全国各地でキャンペーンを実施！
第39回らくのうこどもギャラリー入賞作品紹介

購買部だよりワイド

DMS システム(酪農家経営管理支援システム)

平成23年 集計結果

グループ活動紹介／酪農ガールズ



酪農トピックス／
兵庫県酪連 牛乳の日イベント(大阪)ほか
酪政連活動報告
人事異動
日本酪農見て歩紀(大分県九重町 馬場牧場)



7

2012 July No.562



全国酪農業協同組合連合会



かしこく可愛い酪農女性を目指して



今月号では、宮城県で活動している酪農ガールズというグループを紹介します。酪農ガールズとは、酪農後継者で就農した女性、酪農家に嫁いだ女性、牧場で働いている女性等、酪農に関わる若い女性の集まりです。活動内容は多種多様。そんな酪農ガールズの会長を務める長井愛さんにお話を伺いました。



酪農ガールズ発足のきっかけ

東京から宮城県に一人やってきて、宮城県の酪農家に嫁いだ長井さん。友達の輪を広げようと初めは3〜4人で食事会等を開いていたところ、宮城県大河原農業改良普及センターの普及指導員の方からの提案で、酪農家の娘さんやお嫁さんを集めてグループを作ろう、ということになり、そこからさらに輪が広がることとなりました。また、活動場所として



▲月に一回、個体管理台帳のチェックを行います

後からは勉強会をするというスタイルです。勉強会の内容は、それぞれの牧場で工夫していることを発表したり、宮城県の獣医師に講師を

活動内容

大河原合同庁舎内の和室の会議室を貸してもらったことも、子ども連れで安心して参加できる一因となりました。

最初は7人ほどで活動を始め、現在では16名となっています。メンバーは酪農家の娘さん、お嫁さん、牧場で働いている女性、酪農に関わっている女性等です。活動は月1回で、メンバーは朝の牛舎の仕事、家事等を終えてから午前中に集まり（午前11時頃スタート）、個体管理台帳（育成牛、授精牛、妊娠牛、廃用牛）のチェックを行います。自分の牛の繁殖や疾病状況を1頭ずつ台帳に記すことで、どの牛にどんな問題があるかが分かるようになっていきます。そして、午



勉強会

お願いしたり、基本的な牛群管理のことから実際に現場で悩んでいること等をテーマに研修会を開いたり、近くの酪農家への視察を行う等、酪農現場への勉強も熱心に行っています。さらに、勉強だけではなく、最初のテーマにも書いたとおり「可愛い」酪農女性になるための、カルチャーコーナーもあります。今まで行ってきたのは、フラワーアレンジメントやツールペイントでのトートバックや牧場の看板の作成等です。これらの女性磨きも欠かせない活動の一つ

グループ名	酪農ガールズ
会長	長井 愛
地区	県内全域
メンバー数	16名

メンバー募集中!

です。
他にも忘年会等も開き、メンバー以外の酪農後継者やお嫁さんとの輪も広げる場となっています。

活動していて良かったこと

一番に言えることは、人との繋がりが広がったこと。酪農家の方々は休みもなく、朝晩に出かけることもあまり出来ないうということもあり、なかなか外の人の繋がりを作るのには難しいことも多いそうです。また、宮城県には複数の酪農組合がありますが、組合を超えてメンバーが集まり、話が出来ること人とのつながりが広がっていることの一つです。

月一回の定例会は、子どもを連れていても安心して気軽に出かけることのできる場であると同時に、酪農という共通の仕事を通して、そこで経験する悩みや悲し

み、喜びや楽しさ等の色々な思いや、酪農家の女性でしか分らないこと等を共感し、支え合える場にもなっています。勉強することも大切ですが、そういう機会を作り色々な立場の女性と会話できる場は、とても素敵で大切な時間だと感じました。他には、普段なら一人ではなかなかチャレンジできないようなフラワーアレンジメントやツールペイント、酪農家への視察等も、グループだから出来ることだと、楽しそうに長井さんは教えてくださいました。

これからの活動について

酪農ガールズとして、今後どういう活動をしていきたいかについては、子どもがいる方も多いので遠いところに出かけるよりも近場でできることをやっていきたい、と長井さん。例えば、地域のイベントへの参加や、牛乳の消費活動にも参加してみたいとのこと。また、酪農関係に関わらず他のグループ等との交流や、女性だけでなく夫婦での参加やボーイフレンドを交えての研修会や交流もしていければ、と話してくださいました。酪農をやっていくには、幅広い知識が必要だと思えます。全くの異分野でも、役に立たないことはないと思います。これからの枠にとらわれない多様な活動は、きつと酪農ガールズのみなさんをもっと輝かせるものとなるだろうと思いました。

最後に

長井さんは、このような酪農ガールズの活動ができるのも、家族や主人のおかげだと話されました。他のメンバーの皆さんも、ご家族に感謝しながら酪農ガールズ活動をしていることに感謝していると思います。

また、酪農ガールズ活動中のみなさんは本当に楽しそうで、私も元気をもらいます。これからもきつと元気の輪が広がっていくことを願っています。

彼女たちの活動が始まったのは、平成22年11月頃です。まだまだ、たくさんの可能性を秘めているグループだと思えます。これから、みなさん日本一かしこく可愛い酪農女性になって、素敵な酪農ライフを送ってほしいと思いました。



フラワーアレンジメント



牧場の看板作り ▲▶



牧場視察 ▶



DMSシステム

(酪農家経営管理支援システム)

平成23年 集計結果

1 DMSシステムは 5年目を迎えました

DMSシステムは全国16会員40戸の参加の下、平成20年に本格的な運用が始まりました。5年目となる今年度は、25会員160戸の参加を頂いています(5月末時点)。参加者を規模別で分類してみると、経産牛30頭未満の方が11%、30～50頭未満の方が49%、50～100頭未満の方が30%、100頭以上の方が10%となっています。全ての規模階層で参加戸数が徐々に増加しているため、この構成は運用開始からほとんど変わりません。DMSシステムでは、あらゆる経営規模の問題解決に取り組んできました。

運用開始当初は、会計ソフトの入力支援に多くの時間を費やしましたが、現在では、「経営検討会^{注1}」「経営分析会^{注2}」の頻度が増え、参加農家の経営発展に貢献できる体制が整ってきました。これからも、経営支援のノウハウを積み重ねていきます。

(注1)「経営検討会」は経営発展・改善を実行するための戦略会議、年4回～12回開催。
(注2)「経営分析会」は経営診断及び問題発見の場、年1回～2回開催。

2 平成23年の集計結果

表1は平成22年と平成23年のDMS参加農家の平均値を比較したものです。この表から、以下のことが伺えます。なお、金額は全て経産牛1頭あたりに換算しています。

表1 DMS参加農家平均値比較(経産牛1頭あたり)

(単位:円)

	平成22年	平成23年	差	
経産牛頭数	60.5	59.7	-0.82	
育成牛比率	44.8%	50.7%	+0.6%	
更新率	27.1%	26.6%	-0.5%	
死廃率	11.1%	11.4%	+0.3%	
乳飼比	51.1%	51.5%	+0.4%	
所得率	10.5%	9.0%	-1.5%	①
総売上高(雑収含)	1,003,327	1,020,730	17,403	②
生乳売上高	835,483	839,452	3,968	
肉用子牛売上高	52,262	48,673	-3,589	
廃用牛売上高	15,200	14,881	-319	
総コスト	893,349	918,280	24,931	③
家族所得	110,098	97,675	-12,423	
雇人費	28,591	31,048	2,456	
飼料費	424,230	445,485	21,255	④
診療衛生費	20,516	19,071	-1,445	
動力光熱費	40,489	45,097	4,608	
共済掛金	30,580	33,654	3,074	
修繕費	28,031	30,066	2,035	
支払利息	7,393	6,201	-1,191	
減価償却費	134,112	136,708	2,596	
フリーキャッシュ	179,952	162,727	-17,224	⑤
借入金償還額	87,078	108,915	21,837	

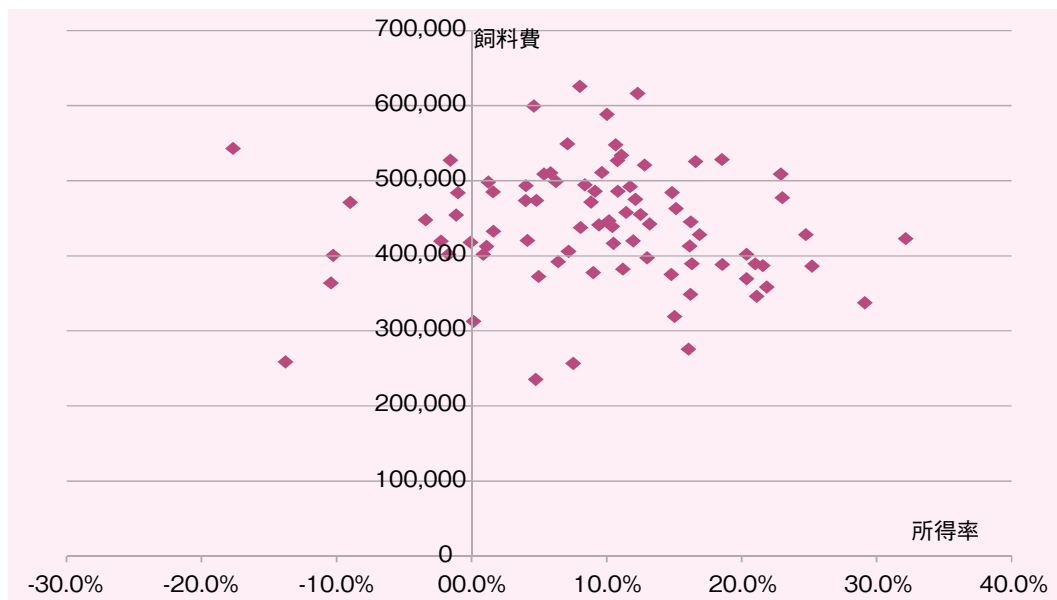
注1)会計ソフト「e酪農経営」のデータのみを利用している。H22は75戸、H23は90戸の平均。
注2)所得は、家族所得(事業主利益+専従者給与)で算出している。
注3)キャッシュフローは、家族所得+減価償却-育成振替高+固定資産売却損で算出している。

① 所得率が1.5%減少している
② 総売上高が17,403円/頭増加している。
③ 総コストが24,931円/頭増加している。

④ 飼料費が21,255円/頭増加している。
⑤ フリーキャッシュが17,224円/頭減少している。

図1 所得率と飼料費(経産牛1頭あたり)の関係

R=0.08

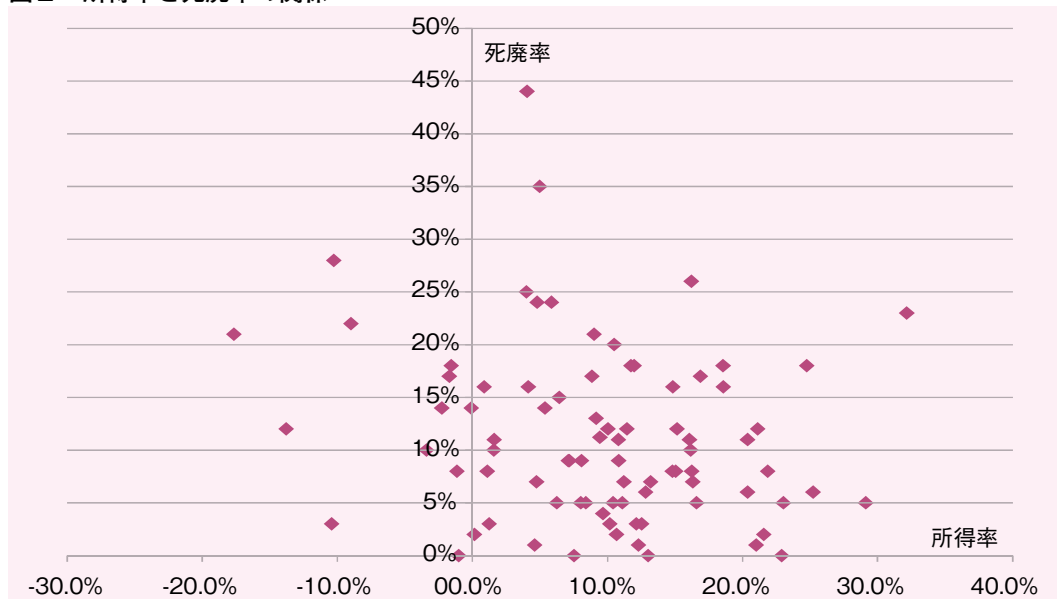


平成23年は平成22年に比べて所得率が1.5%減少しています。経産牛1頭あたりの総売上高が17,403円増加したものの、総コストが24,931円増え、所得が減少

したことが分かります。総売上高の上昇は個体乳量の上昇、雑収入の増加によるものです。一方、総コストが増加した主な要因は、飼料費21,255円の増加です。ちなみに

図2 所得率と死廃率の関係

R=0.23



に、キャッシュフローも17,224円減少していますので、資金繰りは少々苦しくなったと言えます。これはあくまでも平均値での比較ですが、所得率と各種の技術指標

を交えて分析すると、別の一面が見えてきます。図1は、所得率を横軸、経産牛1頭あたりの飼料費を縦軸にとり、参加農家の分布を見えています。統計上は無関係(相関係数 $R=0.08$)となっていることから、経産牛1頭あたりに掛かる飼料費が、直接、所得率に影響を与えるものではないということが言えます。一方、図2は縦軸を死廃率にした場合の分布です。統計上有意な数値ではありませんが($R=0.23$)、飼料費よりは所得率への影響が強いことが伺えます。所得の向上を目指すのであれば、まずは、死廃頭数や死廃要因に注目する必要があるといえます。

3

これからDMSシステム

DMSシステムへの参加のきっかけを聞いてみると、経営継承、法人化、規模拡大といった経営上の転機であることが多いようです。全酪連はDMSシステムに協力していただいている森税理士と協力しながら、税務上の課題にも積極的に取り組んでいきます。また、会員担当職員、本会職員への研修機会を増やし、ますますDMSシステムの体制を強化していきます。今後のDMSシステムに注目ください！

父の日に牛乳を贈ろう!



今年も全国各地でキャンペーンを実施!

全国酪農青年女性会議による「父の日に牛乳(ちち)を贈ろう!」キャンペーンが、今年も全国各地で開催されました。今年は母の日から父の日までの、5月13日(日)～6月17日(日)を中心に、地域の特色に合わせた活動を全国で展開しました。

今月号では、各地で実施されたキャンペーンの一部をご紹介します。

北海道

北海道酪農青年女性会議は、6月4日(月)、6月6日(水)、6月12日(火)の3日間に、江別市・札幌市・千歳市の幼稚園を訪問しました。参加した委員達は、園児たちに牛乳へ親しみを持ってもらおうと、等身大牛タペストリーや牛の着ぐるみ・紙芝居を使って酪農家の生活や牛乳ができるまで等の説明を行いました。また、三園併せて200ml牛乳460個を配布しました。

園児たちからは「牛さんにはどうして角があるの」「どうして体は白と黒なの」といった活発な質問が寄せられました。



▲ 大谷地幼稚園



◀ お父さんの似顔絵



◀▲ 住吉保育園



▶ 「8020運動」とタイアップ!



◀ 多くの人でにぎわいました

岩手中央酪農青年婦人会議は、6月3日(日)に「岩手県歯科医師会館」で社団法人岩手県歯科医師会と盛岡市歯科医師会が実施する「8020運動」とタイアップし、牛乳の消費拡大を訴えながら牛乳や風船を配布しました。

岩手

北海道

岩手

福島

5月28日(月)に県庁農林水産部長室において、「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーンの一環として、福島県農林水産部田村技監へ、鈴木会長から福島県産牛乳を寄贈し、鈴木会長の「福島県の安全で美味しい牛乳、自分たちが生産した生きる力を消費者の皆様へお届けしたい」とのかけ声で、牛乳で乾杯致しました。

鈴木会長は「父の日をきっかけに消費者へ安全・安心をとり戻す日としていきたい」と語り、私たち牛乳を生産する酪農家が先頭に立ち、「福島県産牛乳の安全・安心」、「父の日」に向けて、日頃の感謝の気持ちと思いやりを牛乳に込めて贈ってほしいとPR致しました。



田村技監へ牛乳の贈呈

福島県産牛乳を飲んでPR



牛乳で乾杯

6月12日(火)、小野町の6園児施設にて、牛乳の大切さ、命の尊さを紙芝居を通じて園児たちに伝える食育牛乳消費拡大運動を実施いたしました。また、安全・安心の県産牛乳訴求活動として小野町長室と小野町議会を訪問し、現在の酪農家の状況や今後取り組みなければならないこと等を直接訴えかけました。



紙芝居に興味津々な園児たち

小野町議会にて、小野町議長へ牛乳を贈呈



小野町町長室にて、宍戸町長へ牛乳を贈呈

栃木

栃木県酪農青年女性会議は、6月2日(土)、3日(日)、15日(金)、牛乳の消費拡大及び継続的な消費を図るため、「父」と「牛乳(ちち)」という分かり易い語呂合わせを利用し、「父の日に牛乳を贈る」ことを全国的に呼び掛け、併せて、牛乳の各種成分が持つ「イライラ解消」や「血圧上昇の抑制」作用等の機能性をアピールし、牛乳のプラスイメージの定着を図ることで、継続的な牛乳消費を喚起することを目的に活動を行いました。

6月2日(土)はオリオンスクエアにおいて、下野新聞社主催の地域「彩生」プロジェクト、発SHIN!「とちぎの元気」イベントに参加し、3日(日)は、県内の道の駅・スーパー等8ヶ所で一斉にPR活動を行いました。また、15日(金)は、県民の日イベントに参加し、PR活動を行うとともに、栃木県知事へ牛乳を贈呈し、牛乳消費拡大活動の協力をお願いしました。



4月29日(日)、茨城県酪農青年女性会議は、「イオンタウン水戸南」において、「ウシ君」と「ミルク大使」がリーフレット、メッセージカード、ミルメーク等を配布し、牛乳の機能性を訴え、牛乳消費拡大運動を行いました。

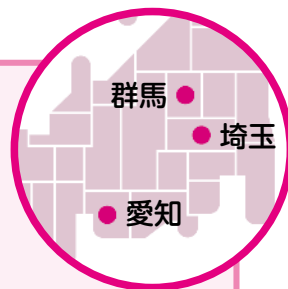


ウシ君とミルク大使

茨城

埼玉

埼玉酪農業協同組合は、5月13日(日)に美里町のポピーまつりに参加し、「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーングッズの配布等のPR活動を来場者に積極的に行いました。



群馬県酪農青年女性会議連絡協議会は5月19日(土)～6月17日(日)にかけて、キャンペーンを行いました。

5月19日(土)、20日(日)に道の駅ふじみで「風ライン祭り」時に牛乳とミルメークを配布。6,000人程の消費者の方が集まり大盛況でした。



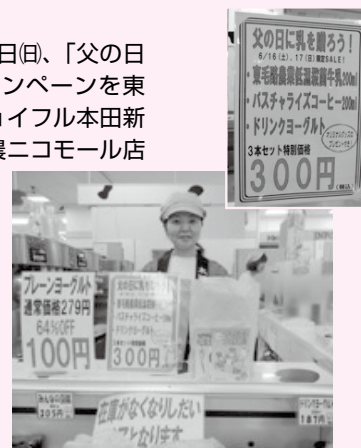
6月8日(金)、9日(土)には、伊勢崎市の日帰り温泉やすらぎの湯で入場者の方に父の日カードとミルメークを配布し、「父の日に牛乳を贈ろう！」と牛乳消費拡大のキャンペーンを行いました。お風呂上りに牛乳を飲んでいらっしゃる方が目に付きました。



5月25日(金)～31日(木)にかけては、前橋市の山王幼稚園、たちばな保育園、上陽保育園の園児達にミルク冊子とミルメークを配布し、「家族みんなでたくさん牛乳を飲んでね！」とアピールしました。



6月16日(土)～17日(日)、「父の日に乳を贈ろう！」キャンペーンを東毛酪農の隣にあるジョイフル本田新田店内にある東毛酪農ニコモール店で行いました。牛乳と飲むヨーグルトのセットをキャンペーン価格で販売し、お買いあげ頂いた方へ「父の日に乳を贈ろう」のグッズをプレゼントしました。大変好評でした。



6月14日(木)、愛知県酪農農業協同組合青年女性部は東三河総合庁舎を訪問し、消費拡大のPRを行うとともに永田清愛知県副知事へ牛乳を贈呈しました。

愛知

6月10日(日)、愛知県酪農農業協同組合青年女性部は、父の日に牛乳を贈ろうキャンペーンとしてお父さんへのメッセージコンテストを実施し、優秀作品に選ばれたお宅を訪問しました。

応募してくれた子供たちからお父さんに対してのメッセージが読み上げられ、感謝の言葉が述べられるとお父さんたちは日頃の疲れも吹き飛ばすような笑顔になりました。





中部会議

6月6日(水)、中部酪農青年女性会議は東海農政局を訪問し、消費拡大のPRを行うとともに森 多可志東海農政局長へ牛乳の贈呈を行いました。

伊藤 剛嗣 東海農政局次長の乾杯の発声後、生乳の需給動向や近年の酪農環境、東海地域の生乳生産量について、意見交換がされました。

当日は、地元テレビ局も取材に来て、夕方のニュース番組で放映される等牛乳消費拡大のアピールが出来ました。



岐阜

6月11日(月)、岐阜県酪農青年女性会議は、岐阜県の古田県知事への牛乳贈呈を行いました。



▲ 直売所で牛乳試飲

兵庫

6月17日(日)、父の日に牛乳を贈ろう！キャンペーンとして、JA兵庫六甲酪農協議会は県酪連や乳業メーカーの協力を得て、管内主要直売所で消費拡大の活動を行いました。

6月5日(火)、おかやま酪農協・青年部・女性部は6月の「牛乳月間」のキャンペーンの一環として、県庁及び中国四国農政局を訪問して県産牛乳と乳製品を贈呈し、消費拡大を呼びかけました。千葉靖代組合長は消費拡大につながる会議での牛乳飲用促進等をお願いしました。県庁食堂では、6月の毎週火曜日に県産牛乳を使った料理の提供やレシピの配布等を実施して頂いております。



▲ 岡山県知事表敬訪問(中央が石井知事)



▲ 岡山県庁食堂にて牛乳杏仁豆腐のPR



岡山

岡山県庁食堂での6月の毎週火曜日特別メニュー牛乳味噌ラーメン

三重

6月22日(金)、三重県酪農女性会議は三重県津市の前葉市長への牛乳贈呈を行いました。江尻委員長より牛乳の効能についての説明があったあと、みんなで乾杯を行いました。



鳥取

▶ 牛乳で乾杯



▶ 三朝町(中央右が吉田町長、左が幅田組合長)



大山乳業農協青年部・女性部は「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーンを実施し、6町(岩美町、三朝町、南部町、江府町、日野町、日南町)を組合役職員と共に訪問して町長さんに白バラ牛乳等をプレゼントしました。最初の訪問となった三朝町では幅田組合長と倉吉地区女性部小谷会長らが訪れ、吉田町長に牛乳のPRを行い消費拡大をお願いしました。

愛 媛



▲ 愛媛県知事へ牛乳・乳製品を贈呈

6月7日(木)、愛媛県酪連の宇佐美忠孝会長、JAえひめ女性組織協議会の荃田秀子酪農部長らが県庁を訪れて、県内のお父さんの代表として中村時広愛媛県知事に牛乳やヨーグルトを贈呈して「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーンをPRし、県産牛乳・乳製品の消費拡大を促進する活動を行いました。

また、県内の小中学生に牛乳のおいしさや機能性について再発見してもらうため、学校給食用牛乳のパッケージを低部動物園のしろくま「ピース」の図案に変更してイメージアップを図る取り組みも行うことになりました。(6月4日(月)～7月13日(金)まで実施予定)



山 口

山口県酪農青年女性会議は、6月17日(日)に防府市のまちなかの駅「うめてらす」で父の日キャンペーンを行いました。当日は、若手生産者10名が牛乳の試飲やミルク鍋の振る舞い等の活動と牛乳早飲みレースのイベントを行い、牛乳乳製品の栄養価値をアピールしながら消費拡大のPR活動を実施しました。



▲ セレモニー

▲ 牛乳早飲みレース
(200ccピンをストローで)



牛乳試飲 ▶

福 岡

糸島酪農青年部 女性部は産直販売所「伊都菜彩」にて、父の日キャンペーングッズとミルメークの配布を行いました。

また、6月14日(木)～16日(土)にかけて、地元保育園、幼稚園を訪問し、キャンペーングッズの配布を行いました。

朝倉事業所青年部・女性部は、6月11日(月)に地元量販店「イオン甘木店」にて、父の日キャンペーンのPRと牛乳販売促進活動を行いました。また朝倉市役所を訪問し、市長に牛乳の贈呈を行いました。

飯塚支所青年部・女性部では地元の直売所「カッホー馬古屏」にて牛乳、キャンペーングッズの配布を行い、牛乳の消費拡大をPRしました。

筑後地区酪農女性部では、6月8日(金)より、地元幼稚園、保育園を訪問し、キャンペーングッズの配布や、ポスターの貼付等を行いました

▶ 産直店「伊都菜彩」にて
父の日グッズ配布



◀ イオン甘木店で



保育園訪問24.6.8 ▶
(筑後事業所)



佐賀県酪農婦人部連絡協議会は6月12日(火)～15日(金)までの3日間、父の日キャンペーンとして、佐賀市の「街かど畑」他3ヶ所において、県産牛乳試飲と父の日チラシ・メッセージカード・ミルメーク等の調味品・牛乳レシピを1セットにし、買い物客に配布しました。ラジオや新聞の取材もあり、牛乳消費拡大のPRになった活動となりました。

佐 賀

長崎

父の日に先立ち、5月4日(金)に長崎県雲仙市『みずほの森 渓流公園』にて開催された「モーモーフェスティバルINみずほ」会場において、来場者にシール、バッジ、絵本、ぬり絵等を配布しました。



▲ 父の日グッズは大好評



◀ モーモーフェスティバル 似顔絵用紙をもらって うれしそうな子供さん

大分県酪農青年女性会議では6月1日(金)に役員5名、大分県酪農業協同組合職員3名とで、酪農家が心を込めて搾った牛乳やその牛乳を使った乳製品を、知事へ贈呈し、県の会議等に県産牛乳の積極的な飲用を要請しました。また、副知事、県議会議長にも直接お会いし、同様の要請を行いました。

また、6月17日(日)の父の日に、大分市内の大型商業施設であるパークプレイス大分にて、「牛の乳搾りに挑戦しテミタ！」と題し、搾乳イベントを実施しました。乳牛1頭を施設内中央のセンターステージに配置し、約150名の子供を対象に搾乳をしてもらい、父の日グッズとして、似顔絵用紙、メッセージカード、ハンカチ、クリアファイル、絵本、ミルクジャンのグッズ等を配布しました。県内のマスコミ各社に呼びかけをし、イベント企画会社にも協力してもらうことで、牛乳・酪農・牛といったものを強くアピールすることが出来ました。また、河合委員長が生産者代表として、ラジオ出演をし、キャンペーンの趣旨や牛乳のPRを行いました。



◀ 大きな牛に子供たちも興味津々



▲ 大分県酪農青年女性会議、河合委員長がラジオ番組に出演、父の日キャンペーンをPRしました。



▲ 楽しそうに搾乳体験をする子供

熊本

熊本県酪農青壮年部協議会・酪農女性部協議会は6月16日(土)、ゆめタウン光の森店にて、牛乳試飲・グッズの配布を行いました。

また6月11日(月)知事・農政局を訪問し、牛乳の贈呈式を行いました。知事を訪問した際には本会のキャラクター「ミルモーくん」と、今や全国区の人気者となった熊本のキャラクター「くまモン」も同席し、牛乳消費拡大のPRとなりました。



◀ イオン光の森店で牛乳の試飲



▲ ミルモーくん和孩子



◀ 県知事を表敬訪問、ミルモーくんとかまモンも一緒

沖縄県酪農青年部・女性部連絡協議会6月12日(火)、沖縄県庁にて副知事へ県産牛乳の贈呈を行いました。

また、6月16日(土)には、イオン南風原店の店頭において、牛乳の試飲、青年部・女性部手作りのミルク餅の試食を実施。また似顔絵コーナーを設け、似顔絵を描いてくれた子供さんに父の日キャンペーングッズやオリジナルのハンドタオル等をプレゼントしました。



贈呈 沖縄県上原副知事に牛乳



◀ イオン南風原店でのみるく餅試食

沖縄

第39回 らくのう こどもギャラリー

入賞作品紹介

●「第39回らくのうこどもギャラリー」の審査について

今回は全国から461点の応募がありました。厚く御礼申し上げます。

今年の審査は、宮島径先生（フォトグラファー）と浅野智先生（画家）をお願いしました。

全体の 作品に ついて

今年も「らくのうこどもギャラリー」に多数御応募ありがとうございました。昨年は震災直後ということもあり、応募作品279点とかなり少なめでしたが、今回は461点と例年並みとなりました。すこしずつですが平穏な日常が戻りつつあることを実感します。

今回の審査は、新たに審査員として画家の浅野智氏をお迎えし、より厳密かつ公平な審査を目指しました。現役の画家から忌憚のない意見を伺いながら、白熱した審査ができたと思います。

今年の印象は、画材や技法は様々ですが、オリジナリティあふれる完成度の高い作品が多かったと思います。色使いの良い作品も目立ちました。そのなかから12点を選ばさせていただきました。

今回特選に選出したのは、横山恵也くんの『草をたべている牛』でした。牛さんの柔らかな顔の表情が印象に



特選 草をたべている牛

馬場川小学校(北海道)4年

横山 恵也

つぶらな瞳が印象的な作品。作者の牛さんに対する優しい眼差しが伝わってくる秀作です。軟らかな毛並みを良く観察し、丁寧に描き上げています。大胆に直線で描かれた柵が画面に緊張感を生んでいます。

残りました。また草を食む舌の曲り具合など、現実ではありませんが、絵空事の楽しさが伝わってきます。入選の石澤愛さんの『元氣な牛たちと私の絆』は、4頭のうしさんの特徴や石澤さん自身の楽しげな表情がとても魅力的に描けています。清々しさを感じる好作品だと思います。秀作の小島慎太くんの『みんな仲間』は、自然環境における酪農のあり方をエコロジカルな視点で表現しています。大人びた発想ですがとても斬新に感じられました。

上位作品に共通することは、描いた人の個性が伝わってくるということです。なるべく他の人と同じ絵を描かないよう心掛けることも大切だと思います。失敗を恐れずに各々が独特な世界を開拓して欲しいと思います。

最後に、作品制作に協力していただいた酪農家の皆様、ご指導いただいた先生方、そして関係者各位に深く御礼申し上げます。

宮島 径
(みやじま・けい)

1967年 長野県生まれ。
1991年 東京藝術大学美術学部芸術学科 卒業。
1993年 デーリマン写真部入社
1997年 フリーランス・カメラマンとなる。

個展：2002年 「surface」(PLACE M、東京)
2006年 「世界のしくみ」 featuring 麻里
布栄 (PLACE M、東京)
2010年 「日照時間/The Daylight Hours」
(ギャラリー蒼穹舎)

浅野智/画家
(あさの・さとし)

1964年 神奈川県生まれ
1991年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業
1993年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画
専攻(油画) 修士課程 修了
1997年 第5回 風の芸術展 ビエンナーレ
まくらざき 賞候補
2000年 第11回 関口芸術基金賞 優秀賞
2001年 第12回 関口芸術基金賞 大賞
その他 個展、グループ展多数
NPO法人with ART 代表理事



入 選

つかれた牛

大泉東小学校(関甲信)5年
米沢 郁海

存在感のある牛さんを斜め前から描いた作品です。牛さんの体の量感がうまく捉えられています。一瞬横を向いた表情からは、「つかれた」感じが伝わり、作品にいぶし銀の輝きを与えています。



入 選

元気な牛たちと私の絆

中央小学校(東北)6年
石澤 愛

4頭の牛さんと女の子の配置が絶妙です。牛さんの個性がうまく描き分けられています。女の子の笑顔や子牛さんの舌など躍動感のある清々しい作品に仕上がっています。



入 選

エサをぜんぜん食べないよ

豊富小学校(中部)3年
清水 悠矢

牛さんを右側に配置し、左側に何も無い空間を配した斬新な構図です。作者の牛さんを心配する気持ちが絵でうまく表現できましたね。作品としての力強さもあると思います。



入 選

草を食べている牛

馬場川小学校(北海道)4年
上泉 美亜

広大な大地の中で、リラックスして草を食んでいる牛さんが印象的な作品です。色使いが繊細かつ複雑で、見るものに強い存在感を感じさせます。ゆったりとした牛さんの動きが感じ取れる作品です。

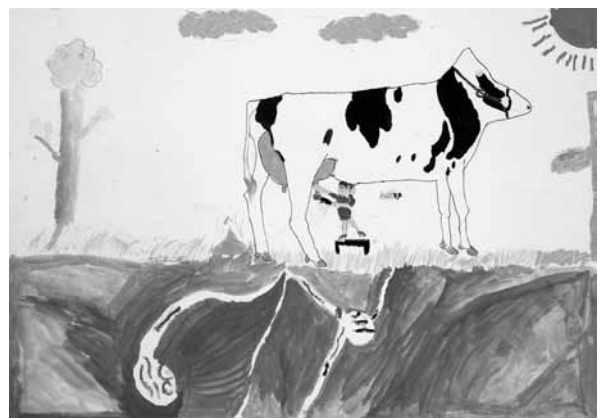


秀 作

「モーモーうしくん」

三里小学校(九州)2年
唐島 葵

画面全体に手がいった完成度の高い作品です。細かな部分までよく観察し、牛舎の雰囲気がよく伝わってきます。調和を感じさせる構図で、遠近感も効果的に表現されています。



秀 作

「みんな仲間」

東風小学校(九州)5年
小島 慎太

大地の断面が登場するエコロジカルな視点を持った斬新な作品です。牛さんも蜂もアリもムカデも人間も自然の恩恵によって生かされていることが伝わってきます。さりげなく描かれたうんちがこの絵の胆になっています。



ファミリー賞

子牛が生まれたよ

札幌緑小学校(北海道)3年

巽 菜々美

牛さん親子と牛舎で働く人たちを生き生きと描いた作品。夢中で乳を飲む子牛とそれを優しく見つめる母牛の表情が見事に表現されています。周りで世話をする人たちの優しい表情もいいですね。



秀作

さばくをふむうしさん

大泉東小学校(関甲信)2年

小倉 健太郎

力強いタッチで描かれた牛さんと画面下のスピード感ある緑のストロークが印象的な作品。牛さんの顔の前に余白を作ることで画面に緊張感を出しています。題名は物語性があり、想像をかきたてる面白い作品になっています。



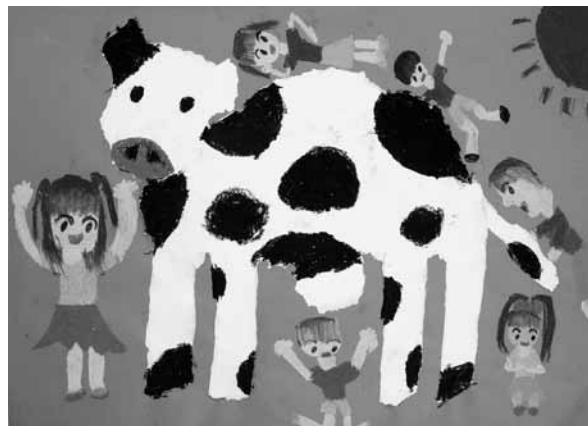
あすなろ賞

「牛さんだあいすき！」

ゆがわ幼稚園(東北)4歳

渡部 快麻

青い色紙に元気いっぱいに牛さんが描かれた魅力ある作品です。力強いタッチで牛さんの動きや存在感が表現されています。様々な画材を使って表現できています。



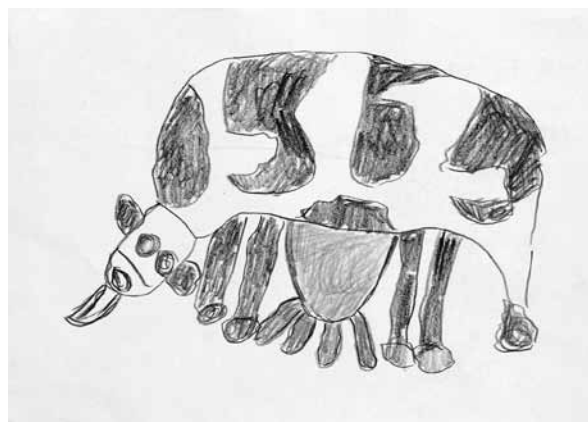
ファミリー賞

「牛といっしょに」

福島第二小学校(東北)2年

小林 純愛

太陽のもと大きな牛さんと一緒に遊ぶ場面を描いた作品です。緑の色紙を使い色彩豊かに表現されています。牛さんの体は白い紙をちぎって形作られ、楽しさが伝わってきます。



あすなろ賞

「うし」

北吉井幼稚園(西日本)4歳

松岡 陸斗

舌を出してゆっくりと首を動かしている牛さんの仕草が伝わってきます。ピンクと赤で表現されたお乳は作品にとてもインパクトを与えています。複雑な形の斑紋をしっかりと観察して描写できましたね。

札幌支所発

第19回乳用育成牛委託販売研究会総会開催

平成24年5月25日に十勝のホテル大平原にて第19回乳用育成牛委託販売研究会総会が開催され、道内の農協担当者、受入農家、本会職員等30名が出席しました。

総会では23年度事業報告並びに収支決算、24年度事業計画並びに収支予算案等が議題としてあが

り、すべてが承認されました。総会終了後、仙台支所千葉リーダーと意見交換会を行いました。府県農家の負託に応えられるよう追跡調査等で率直な意見を聞きたいという要望が出る等、活発な議論が交わされました。

(T.K)



▲ 会議の様子



▲ 谷田会長

東京支所発

第34回粗飼料事業推進研究会総会開催

5月31日(木)、群馬県磯部温泉 ホテル磯部ガーデンにて、東京支所管内粗飼料事業推進研究会（会長：赤城酪連農業協同組合連合会 業務部長 須田修氏）の第34回通常総会並びに研修会が開催されました。

当日は、当研究会員組合より16名、講師として叶産業(株)より2名、(株)ゼン・トレーディングより1名、事務局である東京支所より5名の計24名の出席となりました。開催にあたって、須田会長の挨拶、梅岡事務

局長の挨拶の後、3つの議案について協議し、賛成多数によりすべての議案が可決されました。また、今年度は新しい取組みとして、日々変動していく牧草業界を捉え、今後の日本の輸入乾牧草事業の舵を取れるよう、新興輸入国として近年脅威になっているUAE（アラブ首長国連邦）の現地調査を計画しています。

総会終了後、叶産業(株)より山本課長代理、福留課長代理の両氏を講師としてお招きし、「世界の大豆需給」をテーマに研修会を実施しました。また、(株)ゼン・トレーディング松岡職員より「粗飼料情勢～北米～」と題し、NEWクロップの最新情報の報告をうけました。

研修では、会員の皆様から様々な質問・意見が寄せられ、たいへん有意義な研修会となりました。

(R.M)



▲ 須田会長挨拶



▲ (株)ゼン・トレーディング 松岡職員による研修会



▲ 叶産業(株) 山本課長補佐による研修会

福島県酪農協より

福島県酪農協・小野町地区酪農協

9月1日合併に向けて、合併予備契約調印式執り行われる

5月24日小野町地区酪農協通常総会、30日県酪農協理事会にて承認され、正式に合併決定 県内酪農家の約7割を占める組織へ
新県酪農協として、生産基盤の強化、震災・原発事故からの復旧・復興を目指す

5月15日(火)に郡山市「ビューホテル」において、「福島県酪農協・小野町地区酪農協 合併予備契約調印式」が執り行われました。

はじめに、小野町地区酪農協 根本義規代表理事組合長が開式の挨拶を述べ、福島県酪農協 但野忠義代表理事組合長より、「昨年9月に合併協議会を立ち上げ、協議を重ねて、本日の調印式を迎えることができた。この合併を進めるにあたっては、JA 福島中央会庄條徳一会長の『強固な組織を作って農家の付託に応えるのであれば、どんなことでも協力する』との力強い後押しと、JA 福島中央会組織経営部の



▲ 合併予備契約書に調印し、握手を交わす但野忠義組合長と根本義規組合長立会人の田村 完農林水産部技監、穴戸 良三小野町町長、庄條 徳一JA 中央会会長

全面的な支援があった。9月1日の合併登記完了まで、更なるご指導を心からお願いする。現在の酪農乳業界をとりまく環境は、昨年の原子力発電所事故やTPP、FTA問題等、大変厳しい問題が山積しているが、この合併が組合員に酪農経営の継続と希望、そして夢を与え、これらの問題を乗り越えていく力となり、更なる前進の礎になっていくことを心から願う」と挨拶。福島県酪農協 角田 義勝常務理事より、合併予備契約調印式に至るまでの経過が報告され、小野町地区酪農協 會田 義久副組合長が合併予備契約書を朗読されました。

合併予備契約調印式の立会人として、福島県農林水産部技監 田村完様、小野町町長 穴戸良三様を迎え、合併予備契約書に調印しました。

続いて、JA 福島中央会 会長 庄條徳一様、福島

県農林水産部技監 田村完様、小野町町長 穴戸良三様に来賓挨拶を頂き、最後に、福島県酪農協 阿部正一副組合長理事より、「新生福島県酪農協のもと、私たち役職員・組合員が一丸となって、福島県酪農発展のために努力精進することを誓う」と、閉会の挨拶を致しました。

その後、24日の小野町地区酪農協通常総会、30日の福島県酪農協理事会において、合併案が承認され、「合併予備契約書」は正式な「合併契約」に、「合併事業計画書（案）」も正式な「合併事業計画書」となりました。(W.H)



合併の目的

原発問題・生産基盤対策・TPP問題等、酪農環境の急速な変化に一致団結して対応するため、組合員の信頼にこたえ得る酪農専門農協として、次の事項を目的として合併する。

- (1) 将来の酪農環境の変化に対応できる組織、経営基盤を確立し、組合員の利益を守る。
- (2) 大震災・原発事故からの復旧・復興を図る。
- (3) 生産性の高い酪農の育成を図るとともに、国民の基幹食料として牛乳及び肉資源の安全、安定供給に努め、併せて国土の環境保全に貢献する。

大阪
支所発

兵庫県酪連 牛乳の日イベント

— 6次産業化酪農家 県知事に牛乳乳製品贈呈 —

6月1日(金)の「牛乳の日」に、兵庫県酪農農業協同組合連合会(塩見忠則代表理事会長)と6次産業化に取り組んでいる酪農家が井戸敏三兵庫県知事を訪問して、牛乳・乳製品を贈呈し、牛乳乳製品の消費拡大のお願いや製品の特長をPRし、現在酪農家が抱えている課題についても意見交換をしました。

県庁を訪問したのは、弓削牧場、日向牧場、前川牧場、高橋牧場の4戸7名で、知事に自家製品の牛乳・ジェラード・チーズ・アイスクリームを味見してもら

いました。知事は製品にそれぞれ風味の特徴があるとの感想を述べられていました。

塩見会長は、酪農家に大きな影響を及ぼすTPP問題について知事に協力を求め、県内産牛乳のPRと生産振興への支援をお願いしました。

県庁訪問後、JR元町駅前でMILK JAPANのリーフレットを1,000部配布し、牛乳乳製品の栄養価値の啓蒙と消費拡大の活動を行いました。(H.M)



▲ 左:井戸兵庫県知事、中央:塩見会長



▲ JR元町駅前でPR活動

◀ 牛乳で乾杯!

大阪
支所発

南大阪の食欲そそるお祭り!

— 第10回南大阪ミートフェア開催 —

5月27日(日)、大阪府松原市の南大阪食肉地方卸売市場において、毎年恒例の南大阪ミートフェアが開催されました。

このミートフェアでは、食肉に対する正しい知識の普及、食肉の流通の促進を図ることを目的として毎年開催され、国産牛肉やホルモンの焼肉の試食・即売会を行っています。

当日は強い日差しが照りつけ汗ばむ程の陽気となりましたが、会場では家族連れ等多くの来場者が長蛇の列を作り、振舞われる焼肉に舌鼓を打っていました。

会場では、野菜や果物の即売も行われ、本会からも乳製品の販売を行いました。今年は家庭用の酪農家バター



▲ 今年も多くの来場者で賑わいました

が早々に売切れになるほか、ス

モークチーズやデザート系チーズ・スライスチーズ等持ち込んだ乳製品や昨年より北海道土幌の緑陽牛のPRとして販売をしている土幌限定のポテトチップスもお昼前には完売となりました。

また、緑陽牛生産者である(有)緑陽肉用牛牧場の奥秋社長より、南大阪食肉市場がイベントを通して地域住民に貢献することに賛同され、今回奥秋社長より北海道産アスパラの提供を受け販売を行いました。こちらも販売開始早々に売切れしました。

即売会のほかにも、恒例のビンゴ大会が催され大勢の家族連れが参加しました。毎年子供用自転車等豪華商品が当たるとのことで、特大のビンゴマシンが回される度に大きな歓声上がり、大いに賑わいました。

(H.K)

飛騨酪農協より

国島高山市長へ牛乳贈呈

5月29日(火)、飛騨酪農農業協同組合女性部・青年部は、岐阜県高山市国島市長を訪問し、牛乳の消費拡大をPRするとともに、「父の日に牛乳を贈ろう!キャンペーン」の一環として、高山市民の父親代表である国島市長に牛乳を贈呈しました。



飛騨酪農協が誇る宅配専用商品の「北アルプス厳選牛乳 (Non-Gmo)・飛騨の郷」を味わって飲んで頂きながら、酪農の概況について意

見交換を行い、最後に牛も人も健康で夏を乗り切ろうと誓い合いました。



名古屋支所発

牛乳の日に各地でイベントを開催!!

「牛乳の日」の6月1日(金)に、東海管内各地域において、牛乳消費拡大のための街頭キャンペーンが開催されました。当日は、各地域において晴天に恵

まれ、汗ばむような陽気の中、皆さん、大きな声で歩行者に呼びかけ、活動を行いました。



▲ 岐阜県酪農農業協同組合連合会(岐阜駅)



▲ 愛知県酪農農業協同組合(名古屋駅)



▲ 三重県酪農農業協同組合連合会(津駅)

新規就農を希望される方、経営委譲を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報にアクセスしてみてください。
全酪連のホームページからも入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>

全酪連ホームページのトップ ➡ 右下リンク ➡ 新規就農情報 [社酪農ヘルパー全国協会]





▲ 左から 映介さん、美空ちゃん、陸之さん、志保さん

No.230
馬場牧場
大分県九重町

自給飼料基盤を活用した堅実な酪農経営

地域の概況

九重町飯田高原は、大分県の西部に位置し、標高800～1050mで大部分は山林と原野に覆われており、夏は冷涼で、冬の寒さは厳しい環境です。農業は米のほか、高原野菜、花卉、畜産が盛んです。酪農も規模拡大を進める酪農家もあり、飼養頭数は年々増加傾向にあり、後継者同士の交流も盛んで県下でも有数の酪農地帯です。観光業も盛んで、九重九湯と呼ばれる温泉やスキー場があり風光明媚な高原地帯には年間600万人を超す観光客が訪れます。

今回訪れた有会社馬場牧場は、父の陸之さん（64歳）、母のアヤ子さん（63歳）、映介さん（37歳）、奥さんの志保さん（35歳）、長女の美



牧場入口から撮影

馬場牧場は、昭和33年に飯田地区が集約酪農指定を受けたことで乳牛を導入する農家が相次ぎ、翌年の昭和34年に祖父が育成牛3頭を導入したことから酪農経営が始まりました。その後陸之さんが中学を卒業するのと同時に就農し、両親とともに水稲、野菜、酪農の複合経営を行っていました。水稲の生産調整や野菜の価格変動を経験し、経営の安定化を図るため、豊富な草資源を活用した酪農部門の拡大を行いたいと考え、昭和53年に当時としては大規模の50頭牛舎を建築し酪農の専門化を図りました。

牧場の遠隔

空ちゃん（1歳）、祖母の久子さん（86歳）の6人家族です。今回は牧場経営の中心として日々頑張っておられる映介さんにお話をうかがいました。



映介さんは地元農業高校から大分県立農業大学校に進み、平成6年の卒業と同時に就農しました。映介さんは幼い頃から手伝いをしているうちに、自然と牛が好きになり、酪農はやりがいのある仕事だと感じ、迷うことなく就農したそうです。

経営概況

(有)馬場牧場は現在、初妊牛15頭、未経産牛22頭、経産牛43頭、和牛(繁殖)12頭を飼養されています。主な労働力は陸之さん、映介さん、アヤ子さんの3人で、年間生乳出荷量は39万t(23年度実績)、1頭あたり乳量は9,300kgとなっています。

牛舎はつなぎ式の搾乳牛舎と、フリーバーン方式の育成牛舎で、飼料については、全酪連のベース飼料「コンフォート74」に、メイズと自家産のイタリアン、コーンサイレージをコンプリートミキサーで調整したTMRを給与しています。

馬場牧場の経営の特徴は、恵まれている自給飼料基盤を活かした粗飼料生産にあるといえます。映介さんは酪農経営にとって国産粗飼料の確保が必要不可欠であると考え、粗飼料自給率100%を目標に掲げ、これまで取り組んでこられました。大分県が実施した農地保全合理化事業を活用し水田を14ha取得。その他



繁殖牛舎

にも飼料畑や受託地を所有し、現在デントコーン3町1反、イタリアン26町という広大な自給飼料基盤を確保されています。

広大な飼料基盤を有する一方で、飯田高原特有の冷涼な気候から、収穫作業の期間が限られているため、作業効率を上げるため大型機械の導入やロールベール体系の取組みを行い、安定した品質の良い粗飼料を効率よく収穫することができたそうです。現在では、イタリアン、コーンサイレージ共に通年給与できる量を確保することができ、粗飼料自給率はほぼ100%、乳飼比も40%前後となっております。

糞尿処理についても、ほぼ100%



搾乳牛舎内



哺育牛舎



哺乳ロボット



コンブリーミキサー



ロール置き場



育成牛舎とパドック

飼料畑に使用しており、循環型酪農を实践しています。

自家育成と牛群改良の取組み

馬場牧場では、後継牛確保はほぼ自家産で、映介さんは管理には特に気を使っているそうです。平成14年には哺乳ロボットを導入し、寒さが厳しくなる冬場対策としては、カーボンヒーターを導入。牛床も常に清潔に保ち、子牛の採食量の低下や病気の発生を抑えています。また映介さんは、骨格のしつかりとした足腰の強い牛作りが重要であると考え、育成牛舎をフリーバーンにし、広いパドックを隣接させ、牛が適度に運動できる環境作りを行っています。

また、日頃の改良の成果を発揮するため地元で開催される共進会や

オール九州B&Wショーには必ず出品し、これまでにグランドチャンピオンを始め、数多くの賞を受けられています。

法人化への取組み

馬場牧場では平成14年に家族経営協定を締結し、役割分担を明確化し、給料、作業分担、休日を含めました。このことにより、それぞれの役割や、その役割の責任がはっきりとして、より一層気を引きしめて作業に取り組むことができたそうです。

そして平成15年に有限会社馬場牧場を設立し、家族一丸となって経営向上に取り組んでおられます。

今後の目標

取材の最後に、映介さんに今後の

目標をお聞きしたところ、まずは現状の経営を維持しつつ、1頭当たり乳量を10,000kgに向上させること、そして将来的には家族経営でまかなえる、80頭まで規模拡大したいと語ってくれました。

酪農経営のみならず、地元青年部に所属し、消費者へのPRにも取り組んでおられる映介さん、飯田高原で育んだ良質な草と健康な牛から作られるおいしい牛乳を消費者に届けるために、映介さんの挑戦はこれからも続きます。

最後になりますが、今回、快く取材を受けていただき、厚く御礼申し上げます。(有)馬場牧場の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

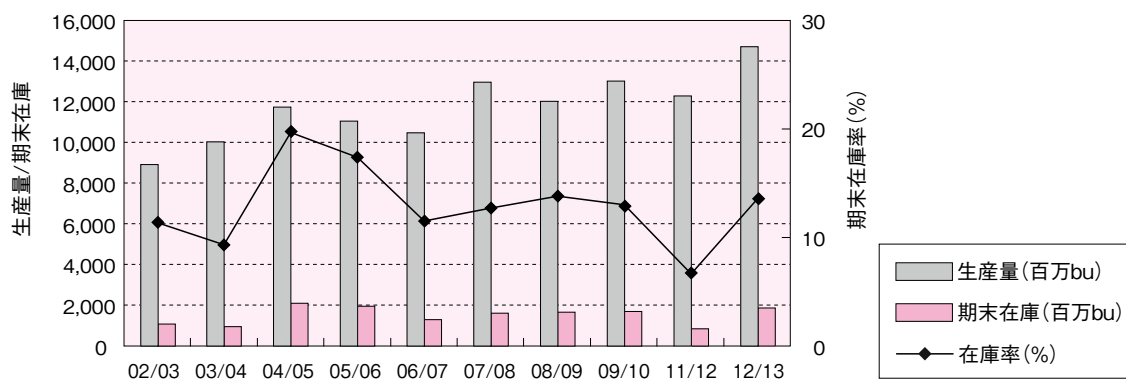


パドック

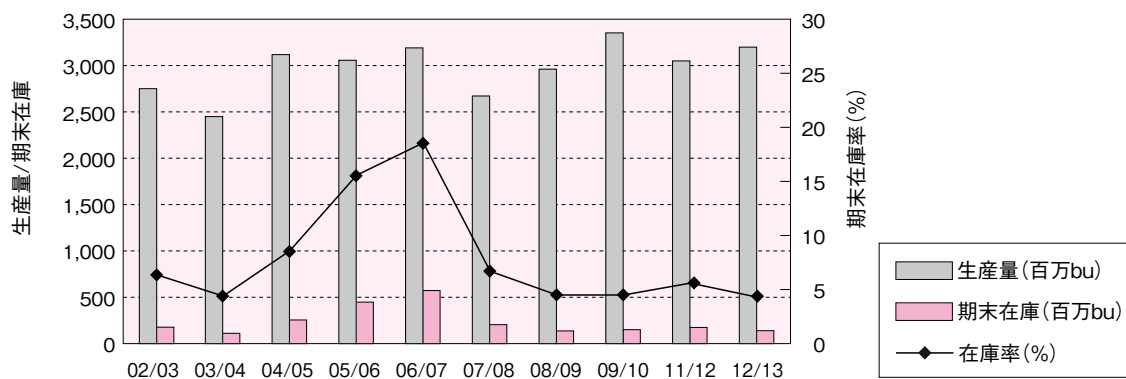
原料情勢 平成24年6月

6月12日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	【11/12年産】 作付面積91.9百万(前月91.9百万) エーカー、単収147.2 (147.2) bu/エーカー、生産量123億5,800万 (123億5,800万) bu、総需要量126億5,500万 (126億7,050万) bu、期末在庫8億510万 (8億510万) bu、在庫率6.7 (6.7) %。 【12/13年産】 作付面積95.6百万(前月95.6百万) エーカー、単収166.0 (166.0) bu/エーカー、生産量147億9,000 (147億9,000) bu、総需要量137億7,500万 (137億7,500万) bu、期末在庫18億8,100万 (18億8,100万) bu、在庫率13.7 (13.7) %。
トウモロコシ相場動向	今後のシカゴ相場は、天候相場に入る。特に12/13年産で高水準に設定されている単収(166bu/エーカー)はコーンベルト中心部で続いた高温乾燥した天候によりすでに実現が疑問視される状況となっている。12/13年産の需給予想では史上最高の生産量が予想されているが、相場は今後も天候が鍵を握る状況が続くものと思われる。
国内産大豆粕	国内需給については、国産大豆粕発生量は右肩下がりだったが、ここにきて下げ止まっている様子。輸入大豆粕は順調に入船しており現時点では受け渡しには問題ない見込。価格については、値を上げている。また、輸入大豆粕は一時値を下げたものの、すぐに元の水準に戻ってしまっており、さらに現地価格は高止まりしており、今後は更なる上昇に警戒する必要がある。
槽糖類	一般ふすまは、小麦の挽砕量は相変わらず低調な様子。現時点では需給はかなり締まってきており、今後受け渡しに支障をきたす可能性がある。グルテンフィードの発生量は、思ったように増えてはいない状況。また、港によっては在庫がタイトになっている模様。
海上運賃	海上運賃は、軟化傾向にあるが、ガルフ出港の不定期船に関しては需要が一定量で保たれており船腹の調達が困難な状況が続いている。今後も横ばいの状況が続くものと思われる。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成24年6月

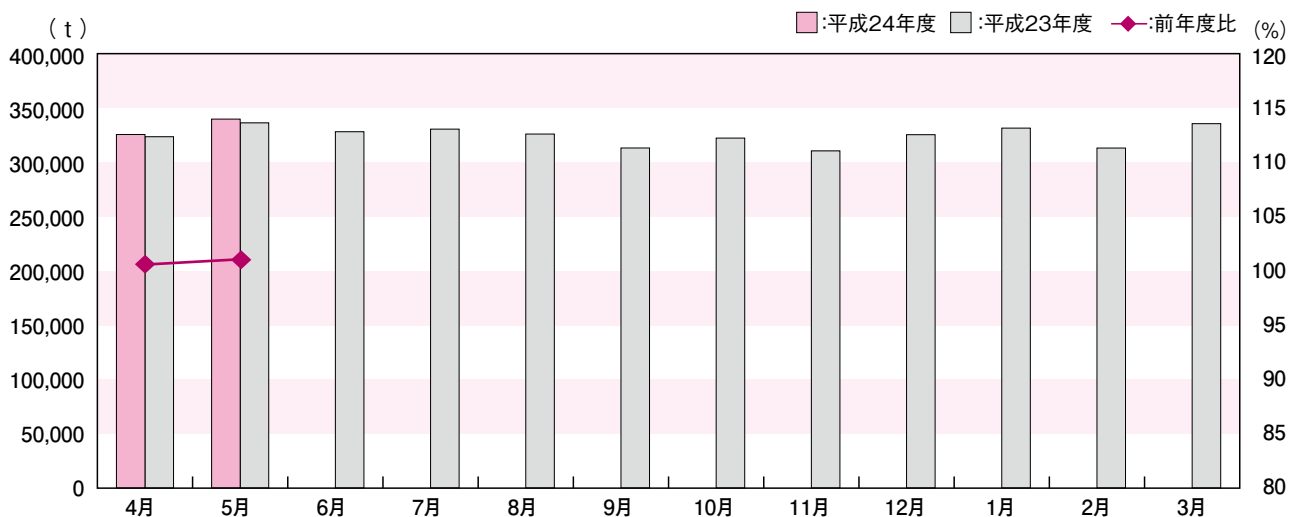
北米コンテナ船 フレート	WTSA加盟の船会社により5月1日付けでGRIの値上げ実施の発表がされたが、ほとんどの船会社で実施は見送られた模様。しかし、今度は7月1日付けで改めてGRI値上げ実施の発表がされており、7-9月分のBAFの値上げも実施される予定。海上運賃は引続き強含みで推移することが予想されている。PNWでは、引続き空コンテナが不足している。
米国の乳価動向	米国の乳価は、引続き弱含みで推移している。飼料コストも高いなか、損益分岐点は\$17/CWT（100ポンド）を超えるとも言われている。12年産アルファルファは米国内酪農家からの引合いが低調になると見込まれているが、今後のアルファルファの作付け・作柄動向や、米国の酪農情勢・乳価動向については、引続き注意が必要。
ビートパルプ	【米国産】11年産の製糖およびビートパルプ生産は、5月上旬に終了。生産量は前年比で30%弱まで減少することとなった模様。生産量に相反して需要は国内向け、輸出向けともに引続き堅調なことから、余剰在庫がないままシーズン終盤まで進むことが予想される。産地では12年産ビート大根の作付けが、5月上旬までに終了。作付面積は前年よりも微増と見込まれている。 【中国産】11年産は、10年産よりも作柄が良好と伝えられている。国内向けの需要はさらに増えることが予想されているため、韓国と日本向けは、10年産に引続き、かなり限定的となることが予想されている。
アルファルファヘイ	【ワシントン産】コロニアベースンの早い圃場では、5月10日前後から1番刈の刈取りが開始。6月4日時点で1番刈の約80%が刈取り済み、約65%がベーリング済みと見込まれているが、1番刈の半分程度が雨当たり被害を受けたと伝えられている。また、産地では引続きBIGベールでの収穫が増えており、3タイの発生量はさらに減少することが予想されている。 【オレゴン産】12年産の作付面積については、11年産とほぼ変わらないと現時点では予想されている。1番刈の刈取りは、クリスマスフォールズの早い圃場では6月上旬から、クリスマスバレーの早い圃場では6月中下旬から開始される見込み。 【ネバタ産】12年産の作付面積については、11年産とほぼ変わらないと現時点では予想されている。米国内向けのみならず、UAEや中国向けに旺盛な引合いがあるため、近年では産地価格は相場に左右されやすくなっている。 【カリフォルニア産】インベリアルバレーでは、12年産の3番刈の収穫がほぼ終了。気温は既に40℃を超える日もあることから、一般的に成分・品質が落ちる「サマーヘイ」と呼ばれるアルファルファの発生が多くなる見込み。需要次第では産地価格も大きく変化する懸念がある。
チモシー	【米国産】12年産の作付面積については、11年産とほぼ変わらないと現時点では予想されている。早い圃場では5月下旬から1番刈の刈取りが始まっているが、本格的な刈取りは6月中旬から始まる見込み。生育状況は良好と伝えられており、良品の収穫が期待されている。 【カナダ産】12年産については、レスブリッジ産、ドライランドともに、生育は順調な模様。生育が1週間ほど遅れているとも言われているが、今後の天候次第では遅れを回復することが十分可能であるとも考えられている。
スーダン	【インベリアルバレー産】12年産は、5月下旬から1番刈の刈取りが始まっているが、本格的な刈取りは6月上旬から始まる見込み。生育は順調な模様。6/1時点で、前年対比101%となっている。ハイグレード品については、生産量もかなり限定的になると予想されている。産地価格はさらに高くなる懸念されているが、ハイグレード品とローグレード品の価格差が大きく広がることも予想されている。
クレイングラス	12年産の作付面積は、5/15時点で、前年対比109%となっている。1番刈の収穫が終了し、現在2番刈の収穫が始まっている。生育は順調な模様。韓国と日本向けに強い需要が12年産も続く予想されるため、産地価格がさらに高くなる懸念されている。
バミューダ	12年産の作付面積は、5/15時点で、前年対比95%となっている。現在、2番刈の収穫が始まっている。国内向け、輸出向けともに強い需要が12年産も続く予想されているため、今後も引続きタイトで、産地価格も弱含むことなく推移することが予想されている。
ストロー類	12年産について、フェスキューストローは7月中旬から、ライグラス（ペレニアル種）ストローは7月下旬から収穫が始まる見込み。年々減少している作付面積は、今年もやや減少することが予想されている。そのため、産地価格も弱含むことなく推移することが懸念されている。
オーツヘイ	【西豪州産】5月中下旬から播種が本格的に開始。極端に収量が少なかった10年産に続き、11年産は輸出向けオーツヘイを生産できない圃場も多く、生産農家は厳しい経営を強いられている。安定した収入が見込める穀類への転作が多いと予想されるため、12年産の作付面積は10%以上も減少することが予想されている。 【南豪州産】南豪州では5月上旬から播種が始まり、6月上旬までにほぼ終了する見込み。西豪州からシフトしてきた旺盛な11年産の引合いを背景に、12年産オーツヘイの作付面積は5-10%ほど増えることが予想されている。 【東豪州産】ヴィクトリア州では5月下旬に播種が本格的に開始。南豪州と同様に、12年産のオーツヘイの作付面積は増えることが予想されている。

平成24年度（5月）地域別生乳生産量

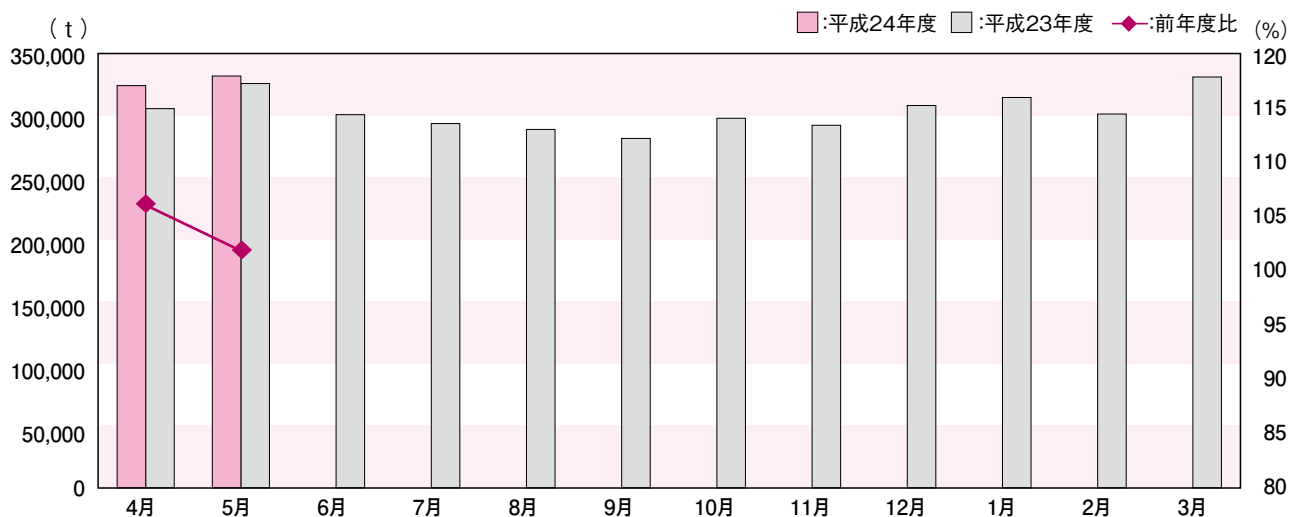
単位：t

	全 国	北海道	東 北	北 陸	関 東	東 山	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
23 年度 5 月	661,818	336,125	50,251	9,474	97,497	11,746	36,169	18,439	27,407	12,648	59,547	2,515
6 月	628,574	327,964	47,467	8,678	89,927	11,199	33,209	16,713	25,181	11,497	54,408	2,331
7 月	623,805	330,363	47,146	8,259	87,626	11,259	32,171	16,385	24,631	10,943	52,721	2,301
8 月	614,552	325,838	48,003	8,025	85,889	11,088	31,040	16,162	24,107	10,659	51,538	2,203
9 月	594,466	313,005	47,323	7,707	82,863	10,857	30,317	15,519	23,565	10,534	50,642	2,134
10 月	619,843	322,112	50,137	8,147	88,027	11,085	32,618	16,214	24,827	11,039	53,418	2,219
11 月	602,420	310,328	49,086	7,959	86,312	10,743	32,225	16,013	24,147	10,937	52,508	2,162
12 月	633,207	325,234	51,663	8,513	90,717	11,280	33,692	17,036	25,222	11,636	55,987	2,227
1 月	645,750	331,298	52,019	8,829	92,456	11,185	34,749	17,486	25,865	12,036	57,569	2,258
2 月	614,082	312,946	49,521	8,382	88,672	10,472	33,129	16,653	24,789	11,472	55,775	2,271
3 月	666,347	335,386	54,152	9,249	97,760	11,542	36,017	18,526	27,139	12,421	61,632	2,523
24 年度 4 月	649,417	325,403	53,039	9,170	96,089	11,050	35,816	18,021	26,669	12,113	59,575	2,472
5 月	671,328	339,593	54,297	9,227	98,067	11,665	36,780	18,427	27,627	12,313	60,803	2,529
前年同月比	101.4%	101.0%	108.1%	97.4%	100.6%	99.3%	101.7%	99.9%	100.8%	97.4%	102.1%	100.6%
24 年度 累計	1,320,745	664,996	107,336	18,397	194,156	22,715	72,596	36,448	54,296	24,426	120,378	5,001
前年同月比	102.3%	100.8%	114.9%	98.6%	104.1%	99.0%	101.4%	99.7%	100.9%	97.4%	102.3%	100.8%

北海道の月別生乳生産量



都府県の月別生乳生産量

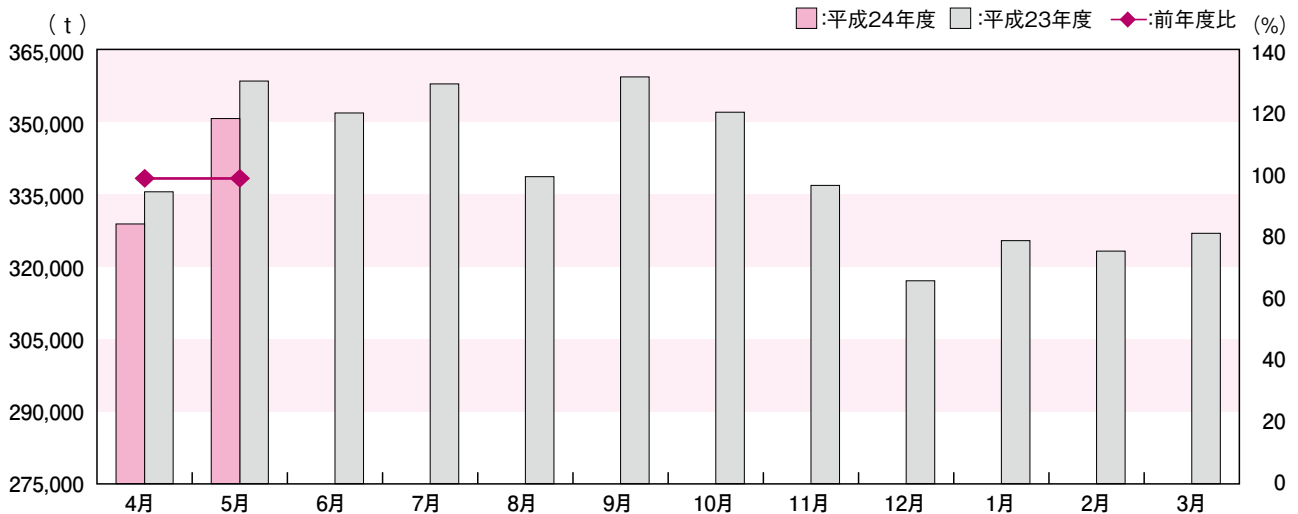


平成24年度（5月）用途別処理量

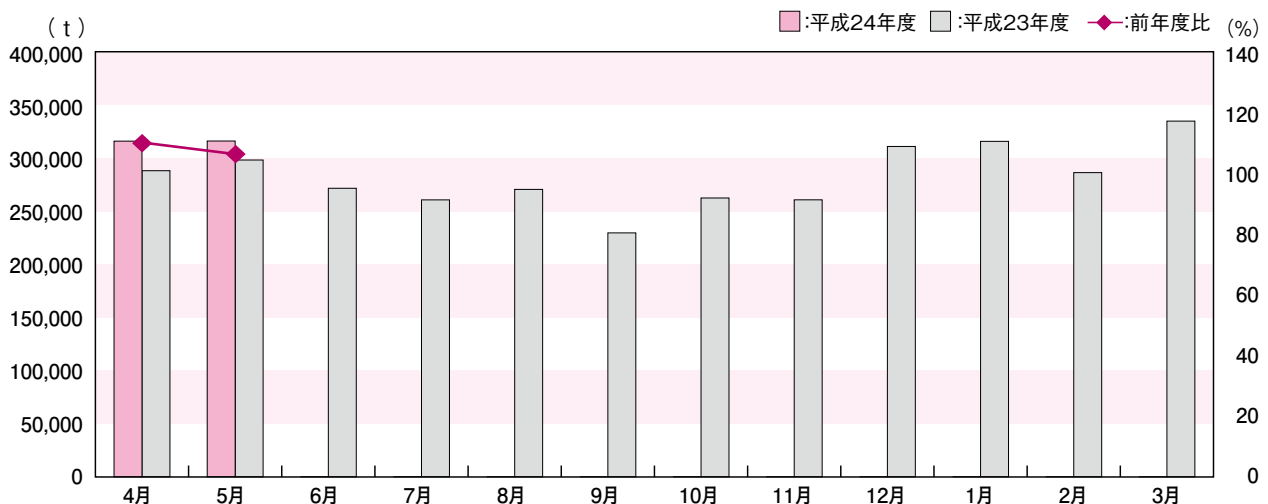
単位：t

	用 途 別 処 理 量							欠 減
	生乳生産量	牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	チーズ向け	クリーム等向け	その他	
23年度 5月	661,818	358,410	26,317	297,991	43,325	98,744	5,417	1,002
6月	628,574	351,800	23,936	271,407	41,464	99,952	5,367	953
7月	623,805	357,820	21,463	260,499	40,080	106,648	5,486	1,054
8月	614,552	338,603	24,216	270,357	40,712	106,994	5,592	1,102
9月	594,466	359,270	27,189	229,452	32,181	104,967	5,744	1,192
10月	619,843	351,958	29,171	262,271	38,368	110,428	5,614	1,076
11月	602,420	336,798	29,374	260,547	38,338	108,557	5,075	886
12月	633,207	317,039	27,191	310,749	39,974	109,880	5,419	957
1月	645,750	325,351	24,812	315,558	46,565	96,795	4,841	1,002
2月	614,082	323,184	25,383	286,133	45,293	99,089	4,765	961
3月	666,347	326,874	28,301	334,591	48,467	109,346	4,882	1,038
24年度 4月	649,417	328,810	27,221	315,743	41,550	105,614	4,864	1,014
5月	671,328	350,642	23,794	315,862	44,713	107,516	4,824	1,019
前年同月比	101.4%	97.8%	90.4%	106.0%	103.2%	108.9%	89.1%	101.7%
24年度 累計	1,320,745	679,452	51,015	631,605	86,263	213,130	9,688	2,033
前年同月比	102.3%	97.9%	103.5%	107.8%	101.7%	109.3%	89.3%	87.7%

牛乳等向け処理量の推移



乳製品向け処理量の推移



※農林水産省統計部が公表した「牛乳乳製品統計」をもとに本会酪農部で集計した。

酪政連活動報告

(平成 24 年 4 ～ 6 月)

日本酪農政治連盟

4/24	TPP 反対議員集会 (幹事長ほか) ◆ 超党派の国会議員約 350 人が出席	5/14	TPP 対応検討幹事会 (中央畜産会事務局) ◆ 「TPP 断固反対全国畜産集会」総括 ◆ 今後の活動について
4/25	三役会議 ◆ 「TPP 断固反対全国畜産集会」の開催等について	5/24	TPP を慎重に考える会勉強会 (幹事長ほか) ◆ 郵政事業に係る講演、役所説明、意見交換
4/25	「TPP 断固反対全国畜産集会」 (日本の畜産ネットワーク主催) ◆ 野田総理訪米直前の反対集会 ◆ 同集会決議文書は民主党、自民党、公明党 幹部へ手交要請 ◆ 全国より畜産農家等約 500 人が参加 ◆ この他、全中集会とキャンドル集会・デモ (TPP を考える国民会議主催) へも参加 ◆ 酪政連関係参加者は 120 人	5/31	TPP を慎重に考える会勉強会 (幹事長ほか) ◆ 自動車関連に係る役所説明、意見交換
4/26	自民党農林部会・畜酪合同会議 (委員長、副委員長、幹事長ほか) ◆ 米国での BSE 発生に係る役所説明、意見交換	6/14	三役会議 ◆ 今後の酪政連活動について ◆ 郡司大臣、岩本・佐々木副大臣への挨拶、要請
		6/18	東日本大震災対策酪農団体協議会事務局協議 ◆ 募金用口座の取扱いと残金の処理について

人事異動

新	旧	氏 名
■平成24年6月15日付異動発令		
品質保証室 室長	品質保証室	前 嶋 修 二
大阪支所 次長 兼 指導組織課長	狭山工場 工場長	柴 寄 亨
大阪支所 次長 兼 総務課長	大阪支所 次長 兼 総務課長 兼 指導組織課長	石 津 佳 春
狭山工場 工場長	品質保証室 室長	米 倉 光

北海道 乳牛産地情報

平成24年7月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27～32	↓	6月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で101.2%、累計で100.8%、苫小牧管内月計で99.5%、累計で100.4%の実績となっております。初妊牛の動向ですが、9月以降の分娩が中心になります。価格については乳価等の影響もあり、道内需要が堅調なため横這いで推移するものと思われ、また、経産牛につきましては、6月から9月に授精できる育成牛以外は弱含みの取引になると思われ、また、経産牛につきましては、良質な物であれば横這いで推移するものと思われ。
	初妊牛	48～52	→	
	経産牛	40～45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30～35	→	6月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で100.8%、累計で100.4%、中標津管内月計で101.8%、累計で101.5%の実績となっております。初妊牛価格の動向ですが、6月に引き続き低調な動きで推移すると予想されますが、地元の需要動向(特にホルズ、ホルズ選別腹)、内地の大型酪農家の導入動向によっては、堅調な動きで推移する可能性もあります。
	初妊牛	48～55	→	
	経産牛	40～48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29～34	→	6月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で101.2%、累計で101.0%の実績となっております。初妊牛価格の動向ですが、9月分娩になることから、府県の購買よりも道内の購買が多く、価格については横這いで推移するものと思われ、10～12ヶ月齢の育成牛につきましては、資源の少なさにより依然として高値で取引され、また、経産牛は、道内需要が底堅いために横這いで推移するものと思われ。
	初妊牛	48～53	→	
	経産牛	45～50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25～30	→	6月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で99.5%、累計で100.2%、北見管内月計で100.7%、累計で100.6%の実績となっております。初妊牛価格の動向ですが、9月分娩が中心となります。価格については、府県の購買が本格化する時期ではないのでは横這いで推移するものと思われ、また、経産牛につきましては、道内農家の生乳生産意欲が高いことから、高値で推移するものと思われ。
	初妊牛	47～52	→	
	経産牛	40～47	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30～35	→	6月中旬までの生乳生産量前年比は、月計で100.9%、累計で100.8%の実績となっております。7月の初妊牛動向ですが、9月分娩牛が中心となります。暑い時期での輸送のことを考慮すると、地域によっては7月中旬までの導入になるものと思われ、価格については、府県需要は少ない時期ではありますが、一方、道内需要は引き続き強い、底堅い動きになると予想されます。育成牛につきましては、来春分娩牛の資源不足が予想されているため、月齢によっては高値で推移しています。
	初妊牛	48～53	→	
	経産牛	45～50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

酪農いきいきフォトコンテスト

今月の表紙は、「酪農いきいきフォトコンテスト」(全国酪友フォーラムにて開催)に応募いただいた作品(愛知県 森 智子氏 撮影)です。牛柄のTシャツを着て、ダンスをしている様子でしょうか。お尻についたしっぽが可愛いですね。



▼今月号では、6月14日に行いましたこともギャラリーの審査結果と、各地で行われた「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーンの活動を紹介します。ご協力いただきました皆様に、御礼申し上げます。今後も継続し、より多くの消費者に「酪農」を知っていただけるきっかけとなることを願っています。

▼早い地域では梅雨明けが発表され、本格的に夏がやってきました。水分補給などをしっかりと行い、熱中症に気を付けて作業を行いましょ。

編集後記

お詫びと訂正

本誌6月号24、25頁に掲載しました「平成24年度(4月)用途別処理量、平成24年度(4月)地域別生乳生産量」のグラフの配色に誤りがありました。正しくは凡例の通り 平成24年度 ■ 平成23年度 □ となります。

謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

平成24年7月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 7月号 No.562

●編集・発行人 近藤 祥史

●発行 全国酪農農業協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/

今月の

ら
く
の
う
こ
ど
も
も
ギ
ャ
ラ
リ
ー

入賞作品紹介



草をたべている牛

馬場川小学校(北海道)4年 横山恵也

今 月の入選作品は、馬場川小学校（北海道）4年の横山恵也さんの「草をたべている牛」です。

つぶらな瞳が印象的な作品。作者の牛さんに対する優しい眼差しが伝わってくる秀作です。軟らかな毛並みを良く観察し、丁寧に描き上げています。大胆に直線で描かれた柵が画面に緊張感を生んでいます。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第39回らくのうこどもギャラリー」で全国461点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議

